

新潟支援報告書

所属名	危機管理室	報告者	柿本雅通(42歳)
派遣期間	平成16年10月27日(水)～平成16年11月2日(火)		
派遣先	市町名	小千谷市	
	場所・部署等	災害対策本部	
支援活動 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災における神戸の対応について概略を説明 小千谷市の方は、今後どのような事務が発生するのかについて情報を求めておられた。神戸の実体験に基づく事態・事務の推移の説明は、小千谷市の方が、その後災害対応を進める上で参考になったと思う。 ・ 災害対策本部の運営に関するアドバイス 災害対策本部が、市役所1階の食堂に設置されており、市長から課長級以上の方々や自衛隊・警察の方々も詰めておられ、電話にも対応しておられた。報道への定時発表は、10月28日から行なわれたようだったが、災害対策本部内での随時の出入りも行なわれていた。また、支援物資が市役所に山積みになり、廊下の通行にも支障をきたすようになっていた。従って、本部機能を一層高めるための報道対応の整理や、配送拠点を設けることにより、物資を移転し、市役所機能を回復することなどについてお話した。これらの点について、小千谷市側も意識されておられ、私たちの意見は、経験に基づくものであったことが参考になったと思われる。 		
課題を含めた感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1陣は、基本的に市役所を中心に活動しており、市街地の様子しか見ることができなかった。今回の災害は、神戸で経験していない山間部の被災地の支援も重要であった(避難勧告が出ており、行くことはできなかったが)。 ・ 全体に地域コミュニティによる避難所運営がなされていた。例えば、ビニールハウスを避難所としている地域もあり、自衛隊やボランティアの姿も見かけたが、基本的に地域の方で運営しておられた。 ・ 市街地に限定してだが、早期に水や仮設トイレが来ていた。関東地方が近いこと、関越道が緊急車両のみだが使用できること、などが大きな理由ではないかと思われる。また、道路を塞ぐほどの建築物の倒壊が少なかったことも支援活動を比較的容易にしていた。 ・ 市役所に到着した10月27日から市役所の電気が灯っていたことは、その後の事務を進める上で非常に大きな意味があった。また、携帯電話も、10月27日以降は、殆ど支障がなかったことも大きい。 ・ 神戸の経験を説明する際は、押し付けにならないことを肝に銘じた。 ・ 第1陣の前に、危機管理室から職員1名が先遣として小千谷入りしていたが、現地の情報収集だけでなく、小千谷市側とのつながりを作っていたことで、第1陣の支援活動をスムーズに開始することができたと思う。 		